

第1次 南地区コミュニティ まちづくり計画（後期計画）



令和6年3月 策定
南地区コミュニティ運営協議会





1. 後期計画の策定にあたって

- 1) 計画の目的 1
- 2) 計画の対象期間

2. 南地区の近年の変化

- 1) 地区構成の変化 2
- 2) コミュニティの歴史 3
- 3) 人口の推移 4
- 4) 地域活動の感染症による制限と再開 6

3. 課題抽出とテーマ設定

- 1) 住民参画によるテーマ設定 8
- 2) 現状分析と課題抽出 9
- 3) テーマごとの方向性 11

4. 検証と新たな取り組み

- 1) 検証・検討体制 12
- 2) 計画の位置づけ 13
- 3) 作業部会での方向性
- 4) 各テーマにおける後期の取り組み 14

5. 推進体制

- 1) プランの推進体制 16

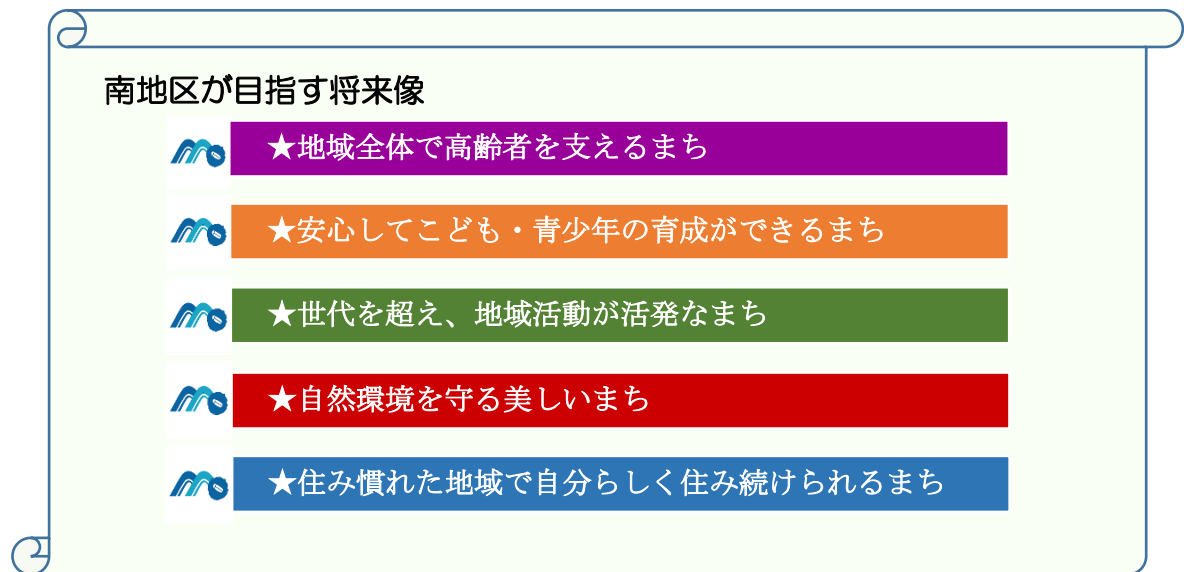
6. 実施スケジュールと情報共有

- 1) 取り組みの実施時期と情報共有 17

1. 後期計画の策定にあたって

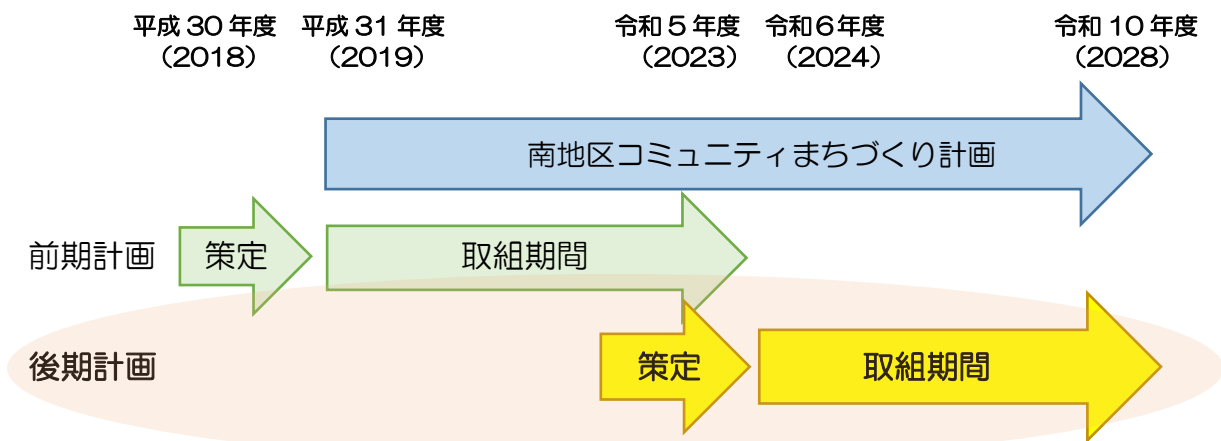
1) 計画の目的

南地区コミュニティでは、市内4地区の各コミュニティ運営協議会が改編された 2019 年（令和元年度）を初年度とし、10年後の2028年度（令和10年度）までを期間とする、まちづくりの目標を定めています。



この5つの目標の実現のために期間前半から取り組むものとして、「南地区コミュニティまちづくり計画」は2019年3月に策定されました。今回策定する「南地区コミュニティまちづくり計画（後期計画）」は前期の取り組みを引継ぎつつ、期間後半の2024年からの5年間を対象に、さらに身近な課題を地域で共有し、解決していくために策定するものです。

2) 計画の対象期間



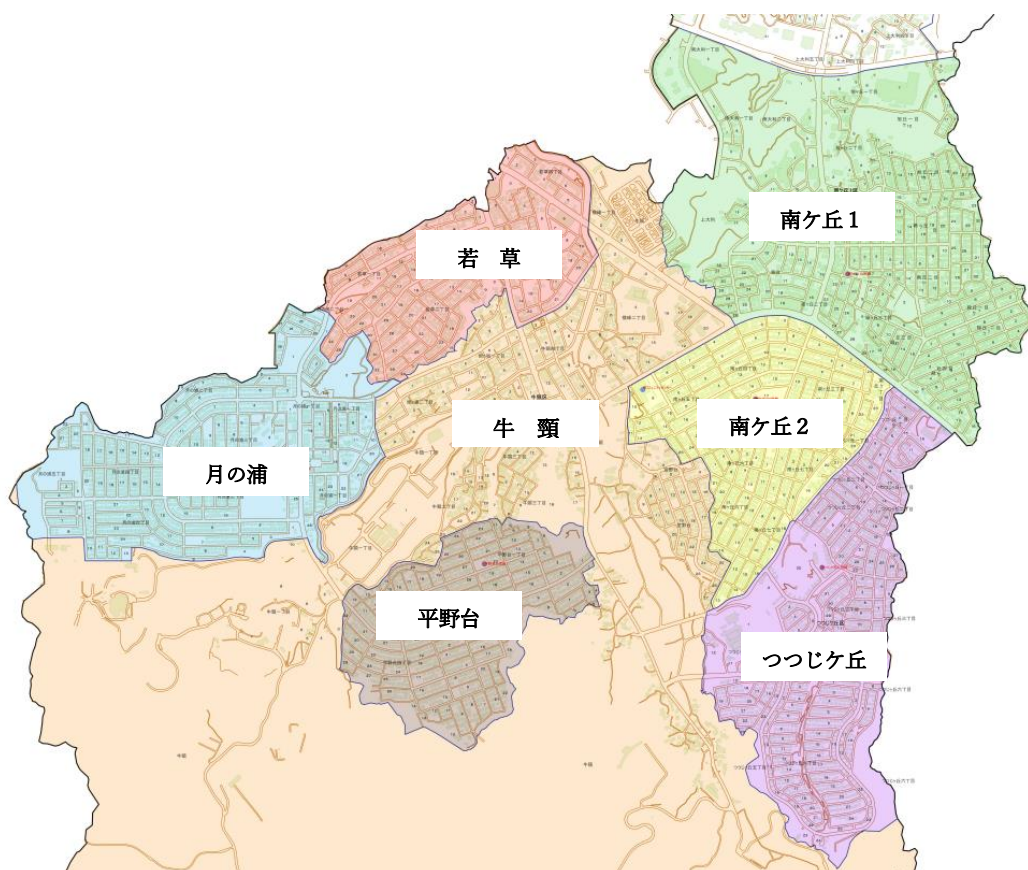
2. 南地区の近年の変化

1) 地区構成の変化

南コミュニティ地区の母体となる「牛頸」地区は、かつて上牛頸、下牛頸が統一され発足した「牛頸区」に端を発します。人口増加ペースが上昇した昭和 40 年代以降、地域活動の適正な規模を維持するために分区が次々と実施され、現在は7区の構成となっています。

市街化区域の開発がほぼ終了した現在、新設された区もそれぞれ成熟してきており、今後の人口停滞の局面においても、この7区の構成は続いていくものと思われます。

また、道路・公園・水道・下水道など社会基盤の整備も完了し、コミュニティセンターや公民館、学校などの施設もほぼ充足しているため、現在はその維持管理が中心となっています。



2) コミュニティの歴史

大野城市の南地区は、昭和40年代に郊外住宅地として開発が始まり、福岡都市圏のベッドタウンとして市街地形成が進んでいきました。福岡都市圏においては職場への通勤時間も短く、一方で緑豊かで快適な住環境に恵まれていることから、西鉄下大利駅や春日原駅からの路線バスの運行を前提として、南ヶ丘・平野台・つつじヶ丘・月の浦・若草などの丘陵を拓いた大型団地が造成されました。多くの新住民を迎えて人口は急速に増加し、南ヶ丘商店街・平野台商店街など新たな生活支援地域が形成され、利便性を高めています。

人口の増加に伴って、教育施設では牛頸小学校が大野南小学校と校名を変え、平野小学校、月の浦小学校が分離新設されました。平野中学校も区域内に開校し、マンモス校ではあるものの南コミュニティ内が全て平野中学校の校区となっているため、南地区の地域間・世代間での連帯感醸成に貢献しています。また、住宅地開発とともに増設建設された南コミュニティセンターは、住民間の文化、スポーツを通じた交流の場として親しまれ、現在も南地区の重要なまちづくり活動の拠点となっています。

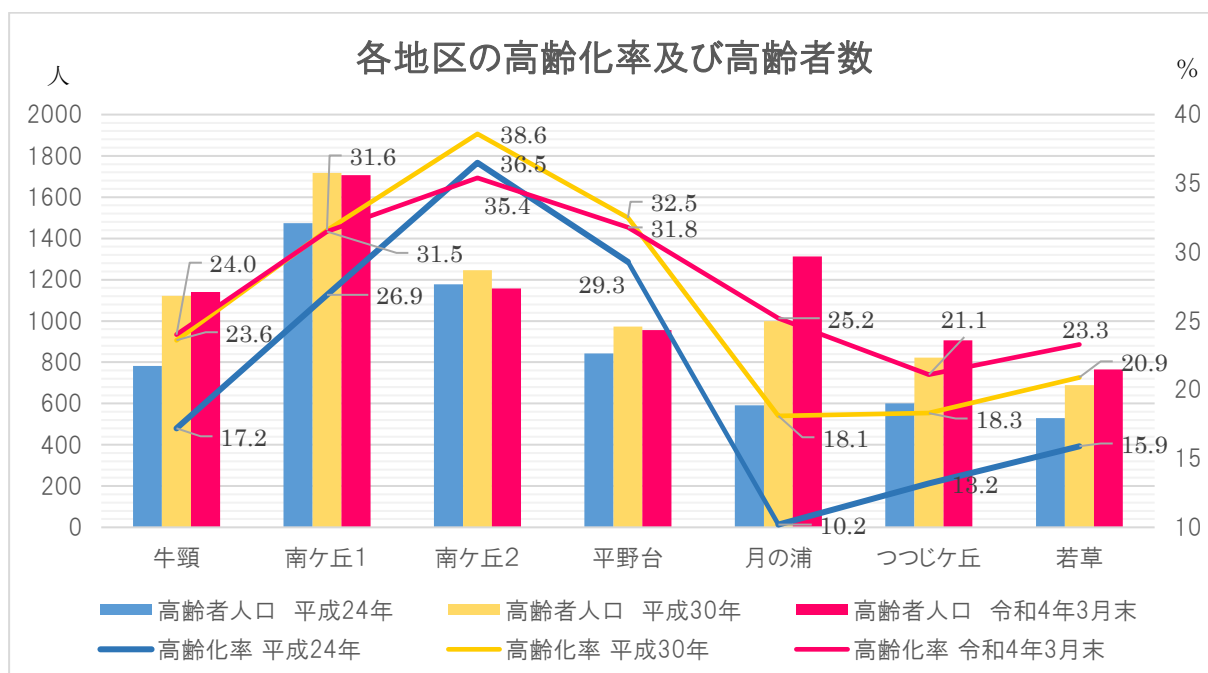
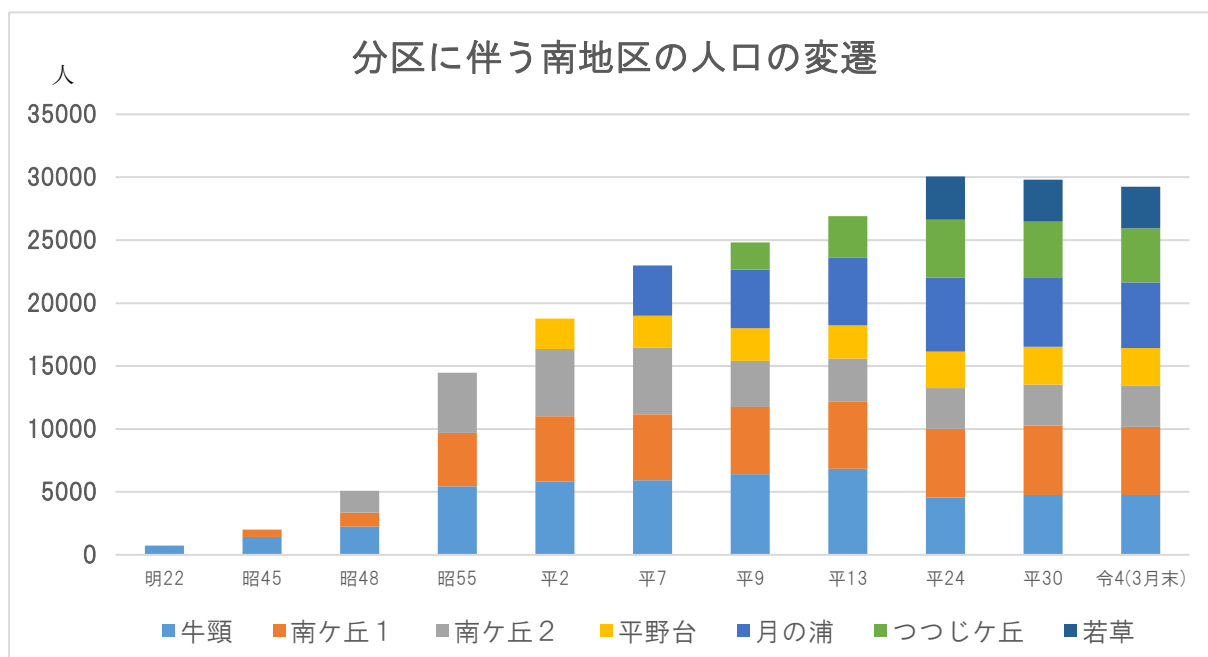
さらに令和3年には、国のモデルコミュニティ指定を受けた昭和46年から数えて50周年を迎え、ますます地域活動は活発に行われています。

南コミュニティの系譜																											
明治7年	昭和3年	昭和4年	昭和4年	昭和4年	昭和7年	昭和8年	昭和51年	昭和52年	昭和55年	昭和56年	昭和59年	昭和60年	平成3年	平成4年	平成7年	平成8年	平成9年	平成11年	平成14年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成24年	平成25年	令和2年	令和3年
牛頸小学校開校	上牛頸と下牛頸の合併	牛頸浄水場完成	西鉄下大利～南ヶ丘線バス運行開始	南地区モデルコミュニティ指定(県内初)	大野南小学校開校(牛頸小学校閉鎖)	南ヶ丘幼稚園開園	南地区コミュニティセンター建設	南ヶ丘保育園開園	南ヶ丘郵便局開設	平野小学校開校	平野中学校開校	平田川桜並木植樹	(現南コミュニティ体育館) 大野城市勤労者体育センター完成	牛頸多目的ダム竣工	大野城「いこいの森オープン」完成	大野城「いこいの森中央公園」完成	月の浦小学校開校	南地区コミュニティセンター竣工	牛頸ホタル飼育場完成	月の浦西公園ホタル飼育場完成	高齢者移動支援「ふれあい号」運行開始	第1回南コミまつり開催	ゆめあかり広場完成	南コミ50周年			
牛頸区の発足										現牛頸公民館完成																	

(参考：牛頸郷土史(牛頸郷土史発行委員会))

3) 人口の推移

この計画の基準年としている令和4年3月末現在、7行政区からなる南地区の人口は29,268人であり、高齢化率は27.2%と他の3地区コミュニティと比べて最も高くなっています。7行政区別の高齢化率は、おおむねその開発時期に応じたものとなっていますが、近年は地理的特徴から、高齢化率の違いが見られています。



(住民基本台帳データ)

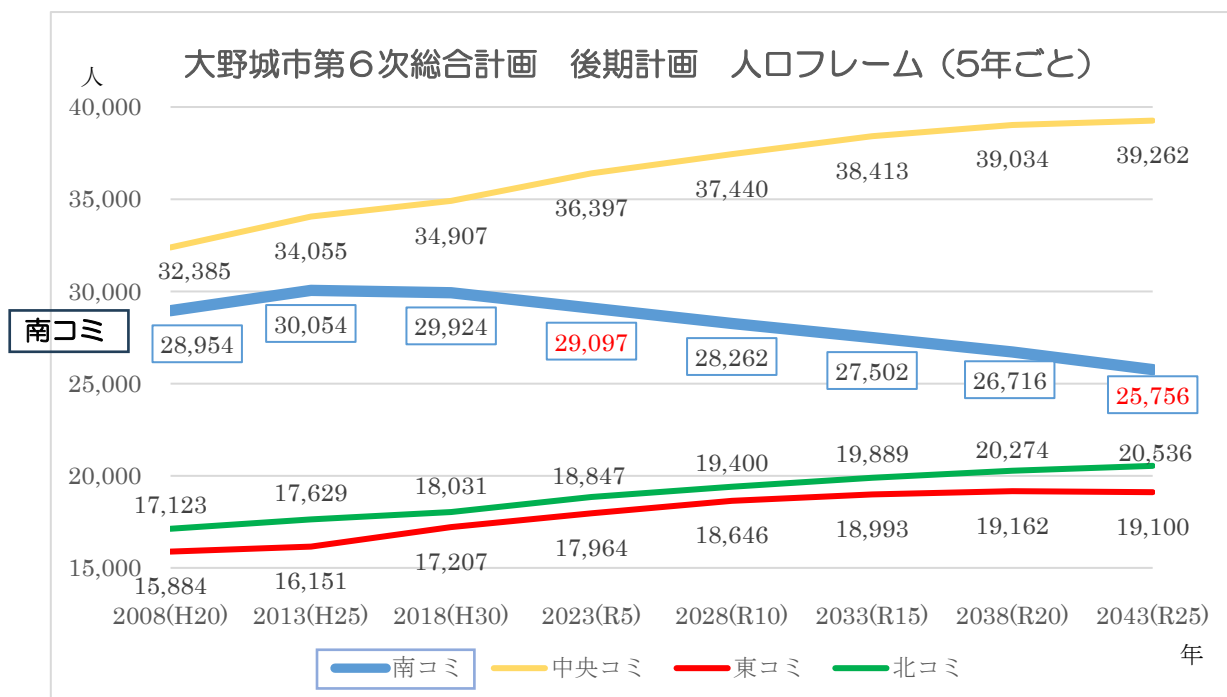
市の第6次総合計画前期計画の時点と比較すると、全体で予測を超える人口増が発生していますが、南地区では高齢者以外は減少しています。市内の他地区へ、特に西鉄の連続立体交差が完成し、マンション建設が相次いでいる中央地区への市内転居もあるようです。南地区の住みよさをアップし、住み続けたい、新たな世代が転入したい地域を目指す必要があります。

大野城市第6次総合計画 前期計画 人口フレーム

	人口	年少人口 (14歳以下)	生産年齢人口 (15~64歳)	高齢者人口 (65歳以上)
H30 実数	29,924人 100,069人	4,668人 15,795人	17,743人 63,294人	7,513人 20,980人
R3 予測	29,923人 101,003人	4,555人 15,784人	17,533人 63,229人	7,786人 21,990人
R3 実数	29,268人 102,002人	4,334人 15,828人	16,986人 63,529人	7,948人 22,645人
R6 予測	29,769人 101,721人	4,402人 15,647人	17,343人 63,165人	8,023人 22,909人
R10 予測	29,479人 102,103人	4,090人 15,126人	17,142人 63,083人	8,247人 23,894人

(上：南地区 下：市全域)

後期計画における南地区の人口減少は、前期計画策定時点の見込みよりもさらに速度を上げて進行しており、高齢化率の上昇も予測を超えています。人口の将来推計を見ても、南地区は市内4地区コミュニティの中で唯一人口減少が進むと予想されており、今後の少子高齢化に伴い発生が想定される、様々な課題に対応した取り組みが求められています。



4) 地域活動の感染症による制限と再開

南地区ではコミュニティセンターと公民館を拠点に様々な活動が行われています。親睦レクリエーションを始め、夏祭り、敬老会、文化活動など子供から高齢者まで幅広い世代向けの活動が開催されており、特に防犯パトロールなど安全安心のための活動は全区で実施されています。また、一つの活動を複数の区で連携し実施する体制は、効率的な運営や担い手不足を解消するための新たな仕組みとして注目されています。さらに、「南コミまつり」「MADOKA れくスポ祭」「まつり南風」「年忘れふれあいパーティ」は南地区全体で取り組む活動として年々広がりを見せ、老若男女の参加も増え、地区に定着した活動となっています。

南地区コミュニティ 運営協議会		行政区	牛頸	南ヶ丘1区
活動 内容	南コミまつり	祭り	盆踊り	夏祭り
	MADOKA れくスポ祭	運動会	平野小学校・牛頸区・ 若草区合同運動会	スポーツフェスタ (グラウンドゴルフ・モル ック・バグジー)
	まつり南風	シルバーウィーク	敬老の日記念行事	敬老の日記念行事
	年忘れふれあい パーティ	文化行事	芸能発表会	芸能祭
	芸能発表大会	年末行事	餅つき	餅つき
	ふれあい食堂	新春行事	ほんげんぎょう	どんど焼き
	ふれあい市場	レクリエーション	五目お手玉大会 ミニデイ ユニカール	五目お手玉大会 あるこう会
	ふれあい号	防災	防災・避難訓練	防災・避難訓練
		防犯	青パト 登下校見守り	青パト 登下校見守り
		環境	クリーンシティ 花いっぱい運動	クリーンシティ 花いっぱい運動
		高齢者福祉	ミニデイ	ミニデイ
		子育て支援	親子サロン	親子サロン
		その他の活動	こども食堂 虫保護活動 平野神社清掃 音楽サロン 足元気教室	落語会 音楽サロン

一方で、令和元年以降急速な拡大とその対応に追われた新型コロナウイルス感染症の世界的大流行は、医療界、政治経済、人々の生活様式にまで大きな影響をもたらしました。地域活動も人との接触抑制による行動制限や、施設の利用制限、感染や濃厚接触に伴う自宅隔離による人員不足などで、その活動はほぼ全てにわたって中止や延期が相次ぐこととなりました。

令和4年度末には感染の鎮静化も見え、令和5年度においては行事も順次再開されはじめたところです。今後感染の再燃や新たな感染症の発生もないと断言することはできませんが、状況の許す範囲で活動の再開と拡大を図っていく必要があります。

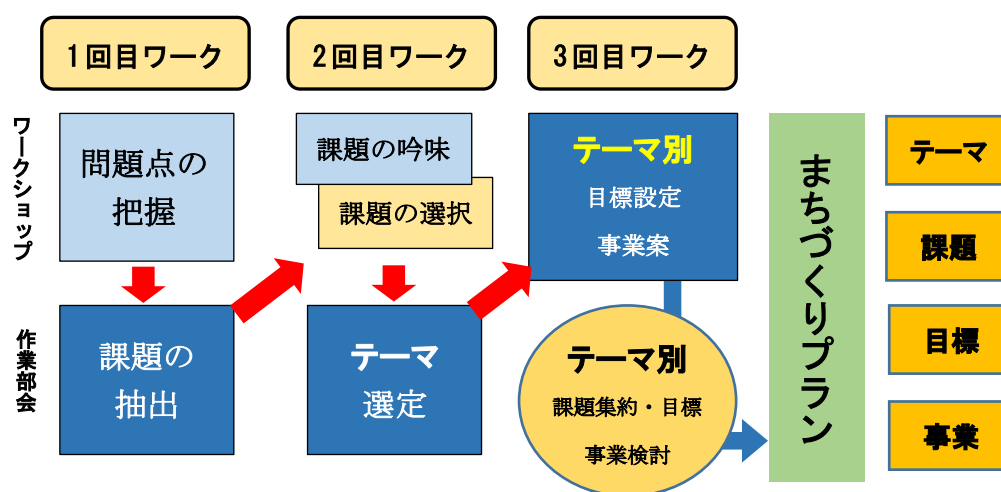
南コミュニティ内7区においては、各区や各部会の努力によりほぼすべての行事が再開され、にぎやかな市民生活が戻ってきています。

南ヶ丘2区	平野台	月の浦	つつじヶ丘	若草
夏祭り	夏祭り	夏祭り	夏祭り	夏祭り
		レクフェスわなげ	運動会	平野小学校・牛頸区・若草区合同運動会
敬老の日記念行事	敬老の日記念行事	敬老の日記念行事	敬老の日記念行事	敬老の日記念行事
芸能発表会	芸能祭	芸能祭・作品展	芸能発表会・作品展	芸能発表会
餅つき	餅つき	餅つき	餅つき	餅つき
どんど焼き	どんど焼き		どんど焼き	
五目お手玉大会 あるこう会 そうめん流し	五目お手玉大会 絶叫大会 そうめん流し もみじ狩り	五目お手玉大会 ふれあい Doing	ユニカール大会	グラウンドゴルフ
防災・避難訓練	防災・避難訓練	防災・避難訓練	防災・避難訓練	防災・避難訓練
青パト 登下校見守り	青パト 町内パト 登下校見守り	青パト 町内パト 夜間パト 登下校見守り	青パト 町内パト 夜間パト 登下校見守り	青パト 町内パト 夜間パト 登下校見守り
クリーンシティ 花いっぱい運動	クリーンシティ 花いっぱい運動 イエローカード	クリーンシティ 花いっぱい運動 イエローカード	クリーンシティ 花いっぱい運動 イエローカード	クリーンシティ 花いっぱい運動 イエローカード
ミニデイ	ミニデイ	ミニデイ	ミニデイ	ミニデイ
親子サロン	親子サロン	親子サロン	親子サロン	親子サロン
子ども食堂 お茶飲み来んね 門松づくり 音楽サロン ひまわり会	宿題サロン 子ども食堂 ぶらっと寄らんです会	子ども食堂 見守り隊	アンビシャス広場 マルシェ・収穫祭	足元気教室 まちびか運動 音楽サロン

3. 課題抽出とテーマ設定

1) 住民参画によるテーマ設定

まちづくり計画の前期計画策定に際しては、地区の問題点、課題の把握及び課題解決のための取り組み、活動を住民参加（ワークショップ及び企画会議）の議論、意見交換による検討を中心に行っています。



計画の方向性及び具体的な取り組み（事業、活動）をまとめるためのテーマについては住民参加で出された各世代の意見、声を集約して7項目に整理しています。

テーマの選択



1. **高齢者**の安全・暮らしを守る
2. 移動がしやすい**交通手段**
3. 犯罪の少ない**防犯活動**
4. 子供の**居場所**
5. 災害に強い**防災活動**
6. 活発な**地域活動**
7. **子育て**しやすく子どもが元気

2) 現状分析と課題抽出

分野	前期の現状分析	課題
高齢者	<p>○昭和 40 年代からの大型団地開発により、急速な住宅地化とともに移り住んだ新住民が一気に高齢者となり、南地区全体の高齢化が顕著で、大野城市 4 地区コミュニティの中で一番の高齢化率となっている。</p> <p>○高齢者の一人住まい、高齢者のみの世帯の増加とともに、地域との繋がりの薄い引きこもり、認知症患者が増え、孤独死や徘徊が懸念されている。</p>	<p>○高齢者のみの世帯では地域とのつながりの機会が薄れ、閉じこもりの傾向にある。</p> <p>○外出機会が減り引きこもり状態となり、孤独死・認知症の危険度も高まり社会の不安が増す。</p> <p>○高齢者が元気で何かやりたいと思っても、地域活動等に参加するきっかけがない。</p>
移動交通	<p>○高齢化の進展とともに、日常生活を支える移動のための公共交通を求める声が高まってきている。特にバス交通は、より自宅に近いバス停、路線ルート等、地域を網の目のようにめぐり、頻繁に運行されるみんなの足となるきめ細かさが求められている。</p> <p>○既存の交通手段を有効に活用し、高齢者等の移動手段を持たない人々が利用できる交通の新たな発想、仕組みを取り入れた交通手段の検討が求められている。</p>	<p>○高齢者の外出をしやすくする（動機）地域の足となるバス交通。</p> <p>○高齢者に限らず、地域住民の誰もが利用できる移動手段。</p> <p>○現在の移動交通の手段がより利用されるように改善する必要がある。</p> <p>○地域交通について地域で自由に話し合う場がない。</p>
防犯	<p>○区ごとに行われている防犯パトロールにより、軽犯罪が減少してきているものの、各区のパトロールにおいて、担い手の不足に悩んでいる。また、高齢者をターゲットにした特殊詐欺が増加しており、注意喚起が求められている。</p>	<p>○大きな犯罪の抑止力となっているパトロールを、より効果的にするための活動時間帯の見直し。</p> <p>○通勤・通学・買い物で利用する道路は、防犯のための照明の配置をする。</p> <p>○犯罪の情報がうまく伝わらず、適切な防犯のための準備・活動がとれない。</p> <p>○特殊詐欺などに合わないための研修。</p>
こども・居場所	<p>○地域との接点がない子育ての親が多く、ひとりで悩みを抱え込んでいる。</p> <p>○子育てに関する悩みや、問題の解決のための相談支援を受けるために必要な情報が不足している。</p> <p>○地域で遊んでいる子どもを見る機会は減ってきている。特に学年相互の遊び、交流や高齢者、大人と子どもとの関係は希薄になってきている。塾や習い事で子どもが忙しく生活しており、子ども同士が集まり、グループで遊ぶ機会が減って</p>	<p>○子育て中の親を呼び込む地域活動の取り組み。</p> <p>○ママ友など子育て中の親のグループ活動との連携。</p> <p>○小学生には夕方 5 時の「帰宅ルール」があるため、誰もいない一人の家に帰らなければならない。</p> <p>○子育て世代が孤立気味で、地域や高齢者との対話の場がない。</p> <p>○小学生の夕方 5 時以降は、友人の誘いをできない為、ひとりぼっち同士の子供が集</p>

	<p>きており、コミュニケーション能力や人間関係の構築に問題のある子どもも増えてきている。</p> <p>○共働き世帯の増加は、夜まで家で一人という子どもの状況が多く、放課後みんなと一緒に入れる場所が求められている。</p>	<p>まりがちになる。</p> <p>○公園で遊んでも近隣住民から苦情があり、子どもが安心して遊ぶ場所がない。</p>
防災	<p>○南地区では、大雨による土砂災害及び地震災害が想定されている。特に、近年多発するゲリラ豪雨に伴い、頻繁に発令される避難情報に住民は戸惑いを感じている。また、警固断層下にある大野城市の震災に対する防災対策への関心も高まっている。</p> <p>○災害時には、公民館を拠点に避難を行うこととなっており、地域での助け合う避難行動のあり方、安否確認、救援救済を共助の精神で行うことが求められている。</p>	<p>○防災訓練が年中行事として行われているが、内容が固定化しており災害時に有効で実践的なものにする必要がある。</p> <p>○公民館への避難の後、小学校・コミュニティセンターへ向かう避難行動のあり方が決まっていない。</p> <p>○防災活動が地域役員等の活動に偏り、担い手が不足している。</p> <p>○一人ひとりの防災意識が低く、防災活動への参加者が少ない。</p>
地域活動	<p>○南地区は、大野城市発展の基礎を作った郊外住宅開発の先駆けとなった地域で、それぞれの開発団地が新たなコミュニティを形成してきた。</p> <p>○牛頸区から、それぞれ分区を重ね、最終的には7行政区が独自の地域活動をもとに、特色あるまちづくりを行ってきた。今後、人口減少、高齢化が進み、地域活動の人材の固定化、担い手不足による地域活動の減速、コミュニティの希薄化が懸念されている。</p>	<p>○昔から継承してきた活動が、子ども向けの行事が少ないなど見直しされることなく継続されてマンネリ化している。</p> <p>○活動の担い手・提供側が地域役員等で固定化しており、やる側の負担感が大きく役員になることが敬遠されている。</p> <p>○地域活動の内容伝達、参加要請を行う情報発信が画一的で効果が薄く、参加者不足に悩んでいる。</p>

こども・子育てやその居場所に関する課題を1つの分野にまとめ、6項目のテーマにおいて今後解決していくための方向性を次のとおりまとめています。

3) テーマごとの方向性

高齢者

- 高齢者が、生きがいを持って暮らせるように社会との関係を持てる環境やきっかけをつくる
- 高齢者の持つ経験や関心に対応した地域活動を紹介（マッチング）していく
- 近所での日頃からの声掛け、見守り等、良好な人間関係を保つ取り組みを行う

移動交通

- ふれあい号の取り組みを中心に、これからの利用に因應するための地域ニーズ、個人ニーズを把握して事業の再編を検討する
- ふれあい号の利用実態の把握を行い、使われるための現状の運営システムの見直しのポイントを検討する
- きめ細かい移動ニーズに対応できる新たなシステムを研究する

防犯

- 地域の重要な通りには夜間でも安心して歩ける明るいまちを目指す
- 無理なく誰もが参加できる負担のない防犯活動を継続する
- 防犯情報がリアルタイムで共有され、地域毎の迅速な対応を目指す

子ども・居場所

- 現在の活動に親子参加の機会を増やす取り組みを増やす
- 子育ての親が集まるサークル等の活動を広げる
- 気軽に日常の子育ての悩み、相談ができる窓口をつくる
- 子育て世代と地域との交流の場を増やす
- 公園等人の集まる行事、レクリエーションを増やす
- 子どもが一人にならず遊ぶ、話す場を生み出す

防災

- 区からコミュニティまで連携した防災訓練を行う
- 気がるに楽しく参加できる活動とする
- 防災士の活躍の場をつくる

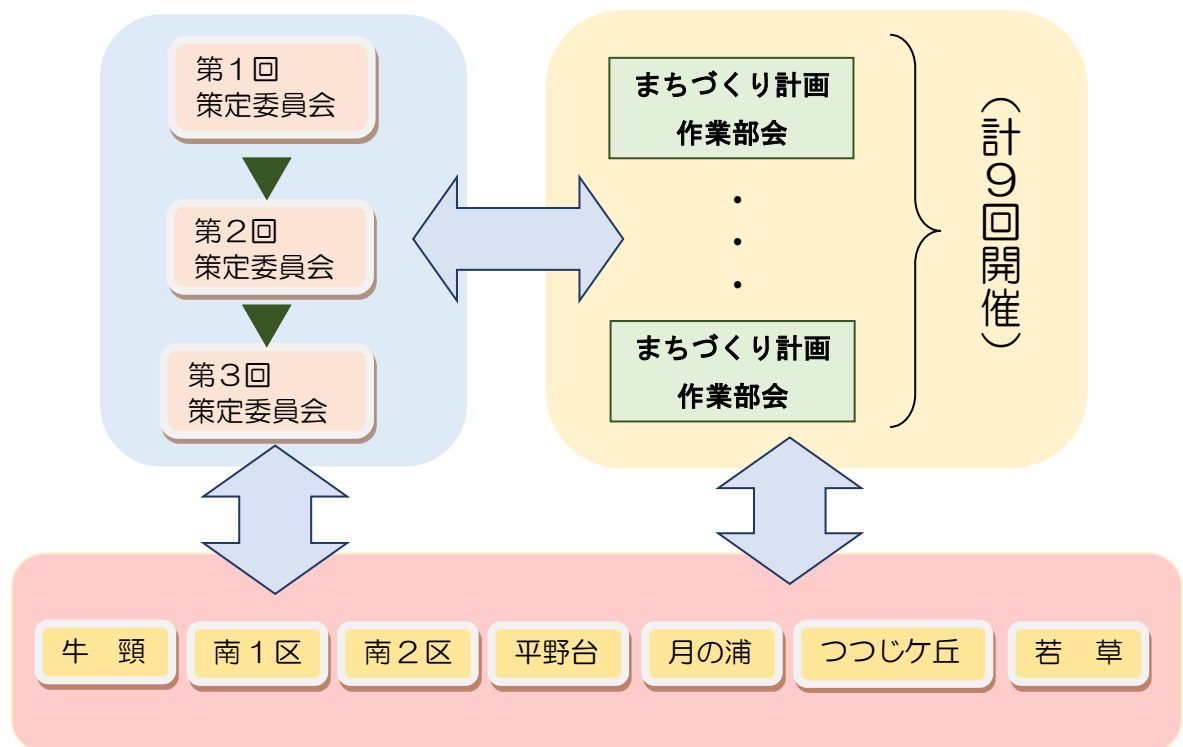
地域活動

- 一部の地域役員等への負担がない、みんなが担い手となる活動を行う
- 子どもが自ら参加、参画する子ども目線にあった活動を実施する
- 住民が分け隔てなく楽しめる体験型の交流活動を企画する

4. 検証と新たな取り組み

1) 検証・検討体制

後期計画においては、前期期間の取り組みの成果と課題をテーマごとに検証し、後期計画に修正追加するために、決定機関となる策定委員会のもとに作業部会を設置し、計画策定を行いました。



○まちづくり計画作業部会

シニア団体や防災士、学校運営協議会などに関連を持つ各地区からの代表や、パートナーシップ活動支援センターなどからも参加を得て議論を進めました。



作業部会



グループワークの様子

作業部会メンバー

地区	代表	代表	地区	代表	代表
牛頸	木下 哲夫	大澤 小百合	つつじヶ丘	久家 幸雄	鳥巢 美和
南ヶ丘1区	内野 知子	近藤 嘉幸		中村 恵一	
南ヶ丘2区	高原 清美	島崎 透	若草	横堀 博好	吉田 徳一
平野台	俵坂 安彦	原田 ゆみ子	PSセンター	伊藤 博	水室 直美
	中島 邦彦		行政センター	岩瀬 修康	高口 隆文
月の浦	羽立 高子	大石 高士		西岡 昭彦	
			コーディネーター	中村 善輝	

2) 計画の位置づけ

策定作業のなかで、計画の位置づけを再確認しました。

- ✓ これまで地域で育まれてきた、まちづくりの系譜や文化を大切にしたいプランとします。
- ✓ これまで7区が進めてきた活動が有する資源を活用したプランとします。
- ✓ 運営協議会のもとに各部会が協力して取組む、住民の参加・参画型のプランとします。
- ✓ 令和6年度からの市の第3次構想『シン・コミュニティ構想』と整合する計画にします。

3) 作業部会での方向性

- 高齢者への支援は移動交通や防犯など多方面に関連する。これまでの取り組みを共有し、令和2年に設置された介護保険の2層協議体などと連携して、広範囲に取り組む必要がある。
- 西鉄バスの減便、タクシーの減少、運賃の値上げなど交通利便性の低下に対し、ふれあい号やふれあい市場などの事業を継続する一方で、地域交通に関する委員会等を地域に設置し、議論を行うとともに市の施策とも連携できるよう検討を継続する。
- テーマである防犯や防災、こどもの居場所づくりなどにおいては、各区・公民館の活動が重要。各区を横断的に活動する部会や幹事会などを通じて情報共有を行い、活動強化を図る必要がある。
- 大野城市防災士連絡協議会と連携を取りながら、南地区独自の防災啓発に取り組むことが重要。
- こどもの居場所としての公民館での対応には限界があるが、こどもとその親にはこの場は必要である。立地の違いなどで居場所づくりは各区様々であるため、求められること、可能な取り組みなどについて協議会を通じて共有し、共通認識を持って進める。
- 情報発信とその活用はまちづくりに重要な手段である。先進的に取り組む LINE 連絡網や回覧板などは若年層の参画増加などで成果を上げている。地域活動への参加を促す手段としてさらに拡大していく。
- 地域活動の担い手不足は、特に高齢化が進む南地区において深刻である。若年層の掘り起しには親子で参加できるイベント等の開催強化が有効。楽しい行事を催し、子育て世代の参画を促していく。

4) 各テーマにおける後期の取り組み

コミュニティプラン（□前期開始コミュニティプラン、■後期追加コミュニティプラン）

横断的に各部会を含めた実行委員会を設け、南地区全体で新たに実行していく取り組み。

■高齢者支援 **高齢者**

南地区では、まちづくり計画に基づく大野城市の地域包括ケアシステムづくりの2層協議体を、令和2年度に「もやいネット南」として設置した。事務局を窓口にして区、各区民生・児童委員、福祉部会、シニアクラブ、NPO 法人共働のまち大野城、南地区地域包括支援センターおよび大野城市基幹型地域包括支援センターの生活支援コーディネーター、社会福祉協議会と連携して、高齢者の生活支援サービスの取り組みを進めている。後期も引き続き「もやいネット南」と連携し、現在取り組んでいるふれあい号、ふれあい市場、ふれあい食堂、認知症研修等、高齢者の生活支援を強化する。

□移動交通検討会 **移動交通**

丘陵地であり、また大野城市で最も高齢化が進む南地区において、高齢者の移動手段は切実な問題である。公共交通の変化があるなかで、今後は高齢者だけではなく市民の足として気軽に利用できる交通手段を考えていく必要がある。

■IT機器の活用による公民館ネットワーク（行方不明者捜索訓練） **防犯**

前期のまちづくり計画により、令和2年に導入したタブレットを活用し、行方不明者が出た場合に青パトによる行方不明者捜索訓練を年1回開催している。この訓練は今後も続けることで、地域の安全を守る対策のひとつとして取り組んでいく。また、導入直後にタブレット及びパソコンのズームアプリを使用して各公民館とテレビ会議ができるシステムを構築した。画像が有効な案件には、リアルタイムで使用することができる。今後は日々進化するアプリを利用して、IT機器を活用した新しい取り組みを行っていく。

□公民館子ども居場所づくりとにぎわいづくり **子ども・居場所**

前期の期間から引き続き、後期も公民館などに子どもの居場所スペースを確保し、子どもの学びと遊びの場の取り組みを進める。また、毎年南コミで開催しているまつりなどで、子育て世代と地域の交流に努め、南地区のにぎわいづくり事業の一環として開催を続ける。

■地域防災への取り組み **防災**

南地区では前期のまちづくり計画の取り組みにより、令和3年に南地区防災士連絡協議会が設立された。続いて、令和4年には大野城市全体における組織である大野城市防災士連絡協議会が発足した。

現在は、南地区防災士連絡部会として市の組織の一翼を担っている。今後は、南地区防災士連絡部会とコミュニティ運営協議会が連携を取りながら、各区が置かれる地域事情などをもとに、南地区住民の安全安心のまちづくりに向けて、防災意識向上、防災活動強化の取り組みを行っていく。

□情報発信ツールの活用推進（SNS、LINE、Zoom） **地域活動**

SNS、LINE等の拡散、即時性のある情報発信により、各活動への参加・参画を高める。各地区の子育て、子ども育成に関する情報をSNS、LINE等の若い世代に的確に幅広く伝達し、活動への参加・参画を高める。前期のまちづくり計画により、南地区コミュニティ運営協議会では、国のモデル地区指定50周年を記念して、公式ホームページを開設し、活動を続けている。

情報の発達、通信技術の多様化により、今後は LINE などを活用した取り組みも重要となってくる。各区における住民向けの LINE サービスも始まっており、コミュニティでは地域ボランティアに若年層を取り込む上でも有効な手段のひとつになってきている。

今後 5 年間、南コミ運では LINE の利用方法など、その活用について各区への支援を行っていく。

■地域と連携した活性化事業 子ども・居場所

南地区の特性を活かした共同事業として、親子で参加できるイベントを提案する。親子参加によって南コミ運の活動を体験し、ボランティア活動に興味を持って自ら参加する姿勢行動を促す。九州場所の関取との交流を利用した親子で参加できるイベントの実施など、交流レクリエーション活動における世代間交流プログラムメニューを開発する。

基本プラン（○前期継続基本プラン、●後期変更基本プラン）

これまで各区で取り組んできた事業や活動の見直し、再編していく活動。事業や南地区全体で基本的な方向を定め、各区がモデル的に先行的な活動を行い、事業を実施しながら、地区全体に広げていくもの。

○高齢者移動支援「ふれあい号」事業 高齢者 移動交通

平成 19 年 12 月から南ケ丘 2 区・平野台区のモデル事業、平成 21 年 4 月からコミ運協事業、平成 27 年度からは共働事業提案制度。前期計画より「まちづくり計画事業」として実施中。

○「ふれあい市場」「ふれあい食堂」事業 高齢者 地域活動

平成 27 年度から共働事業提案制度、平成 30 年度コミ運協事業、前期計画より「まちづくり計画事業」として実施。

○認知症を理解し、認め合い、支援するまち事業 高齢者

令和 3 年度から「認知症への理解と学び」を新たな事業としての取り組みを開始。南地区では令和 3 年に「認知症を理解し、認め合い、支援するまち」宣言を行い、令和 3 年、4 年と講師を招いて研修を実施。前期に引き続き事業を推進する。

○世代間交流体験型事業 子ども・居場所 地域活動

「地域の子ども神輿」事業として実施、今後も各区で作成した神輿のコミュニティセンターへの集合、平野神社への練り歩きなど地子連の協力を受け実施。

○南地区まつりの開催 地域活動 高齢者

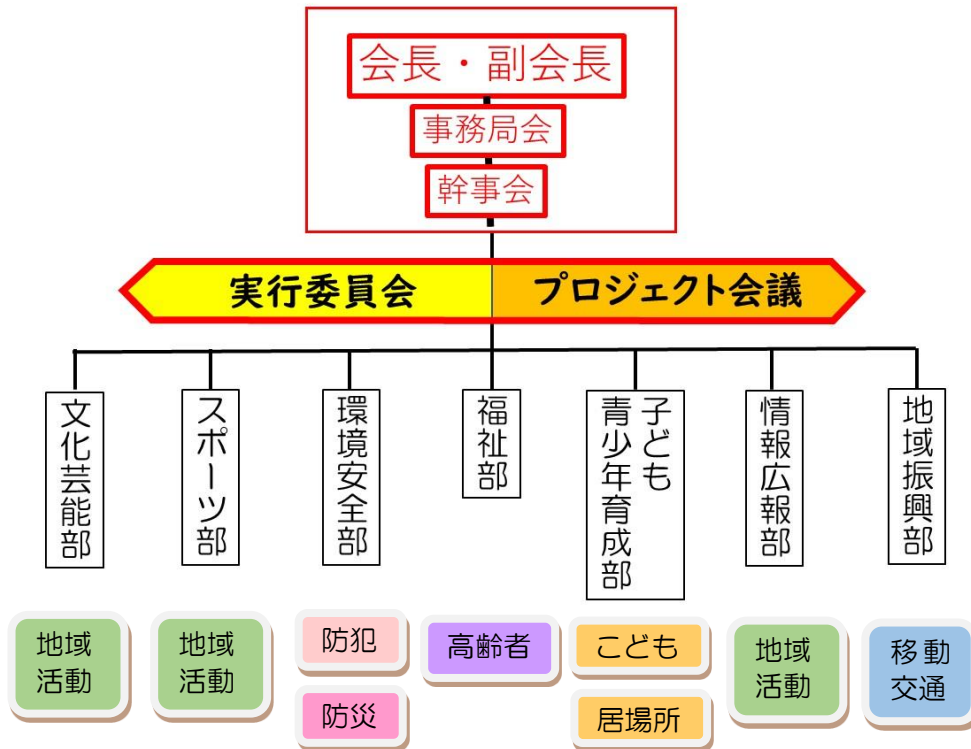
例年、南コミで開催している各まつりで、子育て世代と地域の交流を深め、南地区のにぎわいづくり事業の一環として開催に取り組む。

●牛頸ダム周辺環境保全事業 地域活動 防犯

南地区は自然環境に恵まれる一方で、山間地へのゴミの放置などが発生している。牛頸ダム周辺の環境保全活動を通じて地域全体で環境を守る意識を共有するため、南コミ運環境安全部が中心となり清掃活動を実施する。

5. 推進体制

1) プランの推進体制



各プランの実施にあたっては、会長・副会長を中心とする事務局会・幹事会により進めます。また、運営協議会の各部会は関連する分野の情報を共有し、協力関係を築いて進めることとします。

6. 実施スケジュールと情報共有

1) 取り組みの実施時期と情報共有

取り組み	主な内容	実施時期
高齢者支援	もやいネット南との連携による高齢者事業	期間中継続
移動交通検討会	南地区における今後の交通手段の検討	期間中開催
IT機器の活用による公民館ネットワーク	IT機器による公民館ネットワークの強化	期間中継続
公民館こども居場所づくりとにぎわいづくり	コミュニティセンターや公民館を活用した子どもの居場所支援	期間中継続
地域防災への取り組み	防災啓発活動	期間中継続
情報発信ツールの活用推進	コミ運公式 HP の活用と各区におけるツール活用支援	期間中継続
地域と連携した活性化事業	地元相撲部屋の協力による体験イベントの開催	期間中開催
高齢者移動支援「ふれあい号」事業	ふれあい号の運行	期間中継続
「ふれあい市場」「ふれあい食堂」事業	市場、食堂の開催	期間中継続
認知症を理解し、認め合い、支援するまち事業	研修会の開催	期間中実施
世代間交流体験型事業	子ども神輿	期間中実施
南地区まつりの開催	各まつりの実施	期間中実施
牛頸ダム周辺環境保全事業	環境保全・防犯事業支援	期間中実施

- ✓ 計画に基づく取り組みは、計画期間（R6～R10）に継続的に実施します。
- ✓ コミュニティ運営協議会のホームページに計画を掲載し、情報の共有を図ることとします。
- ✓ 計画の進捗状況を見える化し、取り組みへの参加の拡大につなげ各区・住民のみなさまにお知らせするために情報開示を行います。
- ✓ 本計画の進捗状況は運営協議会の総会で報告し、コミュニティ内で情報共有を行います。



令和3年11月に実施した南コミュニティ50周年「みんなでウォーキング」事業

第1次南地区コミュニティまちづくり計画（後期）策定委員会メンバー

南地区コミュニティ運営協議会 事務局

会 長	上野 節義	(南ヶ丘2区 区長)
副 会 長	永野 元生	(平野台区 区長)
副 会 長	日永田 貞代	久家 幸雄 (つつじヶ丘区 区長)
副 会 長	川邊 満徳	(牛頸区 区長)
副 会 長	中村 博巳	(南ヶ丘1区 区長)
副 会 長	西 司郎	(月の浦区 区長)
副 会 長	川辺 勝滋	(若草区 区長)

事務局長	竹中 ひとみ
	渡辺 美保子
	酒見 俊作
	大宝 敏嗣